９月定例教育委員会

参考資料

（令和７年９月２２日）

議案

第１２号　「令和６年度実績 教育委員会の点検・評価」について

（教育総務課）・・・１頁

令和６年度実績　教育委員会「点検・評価」に係る外部評価者等の意見と対応について

全　体

意見・質疑等 （（　）内は外部評価者ヒアリング時の回答）	記載変更内容 （削除→見え消し、追加→二重下線）
①対外的に公表される資料であり、市民への説明も兼ねていることに留意し、分かりやすい内容とされたい（前年度と同じような記述は、何もしていないとの誤解を招きかねないので避ける）。 各内容を再確認の上、必要に応じ修正	①　修正は個別に記述。
②文字の表記を統一されたい。 ・名（人数表記）→人、 ・取組、取組み（名詞）→取り組み、 ・など→等、・ほか→他、・および→及び、・目指す→めざす、・更なる→さらなる、・毎→ごと ・教師→教員、教職員、 ・今年度、昨年度→令和●年度、 ・「コロナ（禍、拡大）により～」 →「新型コロナウイルス感染症の影響により（に伴い）～」、 ・「コロナ対策」「感染対策」「防止対策」「拡大防止対策」「予防対策」 →「新型コロナウイルス感染防止対策～」（感染拡大防止も含む） ・指標は、短く表記するため「コロナ禍のため（により）～」で統一 ・数字、英語は基本的に全角で統一（固有名詞は除く） 各内容を再確認の上、必要に応じ修正	②　修正は個別に記述。

③【実績と成果】 ・前（R5）年度の点検評価の「課題と次なる展開」を踏まえ実績を記述すること。 ・実績のみの記述に留まっている。成果（その結果）を記述すること。 各内容を再確認の上、必要に応じ修正	③修正は個別に記述。
④【課題と次なる展開】 ・「～必要がある」との記述については、当事者ではなく客観的な表現になっているので修正。 ・「～努めてきた」は取り組みであって、課題にはなってないので修正。 ・課題のみしか記載されていないものは、課題に対応した取り組み（展開）を加筆。 ・取り組みのみしか記載されていないものは、取り組みの根拠となる課題を加筆。 各内容を再確認の上、必要に応じ修正	④修正は個別に記述。
⑤【成果指標】**▼指標の変更も含め要検討▼** ・以前使っていた指標をそのまま残しているということもあると思うので、毎年、担当者が何を目指してこの事業をやっていくかという視点で、再確認をしていく必要がある。取り組むべきことが課題であり、その課題を達成するための展開や目標が成果指標となるので指標が設定できるものは設定することが望ましい。また、時間が経つと見直しが必要な部分や不要な部分が出てくることもあるので、臨機応変に対応されたい。 各内容を再確認の上、必要に応じ修正	⑤修正は個別に記述。
⑥施策の基本方向にあるのに、指標がない。逆に、指標はあるが施策には示されていない等、整合性を全体としてチェックしていただいたほうが良いと思う。 各内容を再確認の上、必要に応じ修正	⑥上位計画である丹波篠山きらめき教育プランで設定している指標を掲載（進捗管理）している。ヒアリング項目に係る指標については、P.39に注釈のうえ、青文字、下線を引いている。

施策の基本方向1　子どもの根っこを育てる乳幼児教育の推進

1－1 “子育ていちばん”に向けて

P9(2)就学前の保育環境の整備(子育て企画課、保育教育課)

<table>
<tr><th>意見・質疑等
(（ ）内は外部評価者ヒアリング時の回答)</th><th>記載変更内容
(削除→見え消し、追加→二重下線)</th></tr>
<tr><td>【実績と成果】
①保育士について、初任者研修はないのか。
(→こども園でも、保育所でも、新規採用職員については、県の初任者研修があり、実際に今まで保育士として働いていたOBの方に一緒についてもらって研修されている。)

【課題と次なる展開】
②人材の確保について、例えば今田保育園と今田幼稚園が一つになったことで人材的にも余裕ができるのではないのか。
(→保育園1つに対して幼稚園 2 つ以上でこども園化していけば、確かに職員をほかに回せるという部分が出てくるが、保育園 1 園と幼稚園 1 園を統合し、こども園にするだけでは、逆に必要な職種が出てくる。)

【成果指標】
③指標を設定できそうな項目である。何を目標にこの事業を展開していくかということであり、設定することが望ましいと思う。　右のとおり変更(指標設定)
④保育環境の整備なので、例えば、今回、今田保育園と幼稚園がこんだ認定こども園に、将来的には城東保育園と幼稚園と統合になる、そういう環境のことではないのか。
(→基本的には、全てこども園化するという計画はあるので、指標としては、全てこども園化するということになるかと思うが、財政的な面や地域から声が上がってき</td><td>① —

② —

③ ～⑥
<table><tr><th>事業内容</th><th>成果指標</th><th>実績</th><th>主担当課</th></tr><tr><td>保育・教育就職フェアの実施</td><td>参加者が前年度実績以上になること。</td><td>7人
(7人)
【－】</td><td>子育て企画課</td></tr></table></td></tr>
</table>

たときとの市長の考えもある中、期限を設定しにくい。） ⑤保育士の確保については、実際不足していて困っている中で、良い取り組みをしてきたと思うので、挙げても良いと思う。 （→保育教育就職フェアに少しでもたくさん来ていただき、丹波篠山の保育教育のよさをPRするということでいくのであれば、その指標としては参加人数を指標として設定できると思う。） ⑥新規採用については、離職に対する補充の意味もあるが、統廃合等があるとなると、例えば、指標として、市内の全保育士、保育教諭などの定数が何人で、充足率が何％という形でもいいと思う。参加者数も大事であるし、定数の充足率も大事な視点であると思う。	

1－3 乳幼児教育の充実

P12（3）諸感覚を発達させる保育・教育活動（子育て企画課）

意見・質疑等 （（ ）内は外部評価者ヒアリング時の回答）	記載変更内容 （削除→見え消し、追加→二重下線）
【実績と成果】 ①積み木の配布は、ユニークな取り組みである。小学校で木の机や椅子を使うように感性に訴えるようなプレゼントをされていることは良いことだと思う。配布対象者がいるのに、残念ながら贈呈率が 100％にならないところがある。主任児童委員が赤ちゃん訪問をされているので、来られないところは、その時に届けていただくことで 100％に近づけることもできると思う。 （→令和 6 年度から始めた取り組みで、本来 100％の方に渡したいところ、86％の贈呈率となっている。これは、積み木をプレゼントする場所を子育てふれあいセンターにし、その存在を知っていただいくことにつなげていこうと思いであったが、やはり 4 か月児健診のときに、お子さんを抱え、荷物をいっぱい持っている状況	①② 事業内容：「丹波篠山　森からのおくりもの」事業の実施 成果指標：贈呈率95％以上 実績：86％（－）【－】 主担当課：子育て企画課

から、さらに子育てふれあいセンターに行くとなると負担が大きいのかもしれない。令和 7 年度からは、手渡ししてお祝いをすることを主として考え、4 か月児健診の場所でお渡しをするようにした。昨年度の残りの 20～30 人ぐらいの方々については、電話をしたり、ハガキを渡したりして、それでも無理な方については家までお届けすることにしている。今後は 100%健診時に渡せるようにする方向で考えている。） ②手渡すことが大事との事業とのことであるが、贈呈率又は配布率 100%は高すぎるので、95%でどうか。なおかつ前年度の分も、きちんと届けたということで来年度、成果に書いていただくと良いと思う。　右のとおり変更（指標設定）	

1－4 子ども・子育て支援の体制づくり

P13（5）子育てふれあいセンターの運営（子育て企画課）

意見・質疑等 （（ ）内は外部評価者ヒアリング時の回答）	記載変更内容 （削除→見え消し、追加→二重下線）
【成果指標】 ①成果指標を特に掲げられていないが、子育てふれあいセンターはどういう方向を目指してやっていくべき事業であるのか。 （→この施設は就学前の親子を対象にしており、特に、保育園、幼稚園、こども園を利用されず家で 1 人で子育てをしてしまう時間が長い方、そういった方がほかの方や子育てアドバイザーとの関わりを持つというところで、子育ての支援ができたらと思っている。） ②利用してもらいたい、参加してもらいたいということに主眼が置かれているということであれば、参加してもらうためにニーズを把握するということで、課題にもニーズに合ったイベントを実施していくということであるが、具体的にニーズの把握の仕方はやはりアンケートになるのか。来てくれた方にはアンケートを実施して、今	①②③ 事業内容：子育てふれあいセンターの運営 成果指標：来所者数 実績：15，966人（11，927人）【10，039人】 主担当課：子育て企画課

後どういうことを求めますか、期待しますかということを聞くわけだが、来ない方のニーズの掘り起こしは難しい。例えばこのアンケートを実施して、どういうニーズがあるのか、具体的につかんだ事例はあるのか。 （→特に子どもの躾、細かいところでは靴選びを教えてほしい、私のこの育児はあっているのかということがアンケートにあるので、そういったものを解消できるような専門家を招き、講演会を開くなどの取り組みをしている。） ③前年度で大人の参加者数も子どもの参加者数も増え、かなり増加したことは活動の成果であると思う。ターゲットになるのが幼稚園も保育所も通ってない親子で、ここをどう呼び込むか、関わっていただくかということになる。子どもの数はどんどん減っていく中、指標を人数にするとままならないところもあることから、例えば、幼稚園や保育所にほぼ全員が行くようになれば、特にアプローチを強化する必要もないが、ここでは参加者数、利用者数の増加に重きが置かれていると思うので、とりあえずは人数にしておいてもよいかと思う。あるいは、保育園にも幼稚園にも在籍していない世帯がどれぐらいあって、そのうち何世帯がここにアプローチしたという把握ができれば、そういう掴み方でも良いと思うが、いずれにしても何らかの指標を設定していただくことは大事であると思う。 右のとおり変更（指標設定）	

P13（11）子育ていちばん PR（子育て企画課）

意見・質疑等 （（ ）内は外部評価者ヒアリング時の回答）	記載変更内容 （削除→見え消し、追加→二重下線）
【実績と成果】 ① ワクワクフェスティバル 2024 はどのような内容であったのか。 （→11 月に四季の森生涯学習センターの野外ステージで初めて実施した。日頃、子育てに少し疲れている方であっても、お子さんと一緒に楽しんでいただくこ	①令和6年度新規事業の~~として令和6年度から実施した~~「親子でワクワクフェスティバル2024」では、遊びを通じて親子の絆を深める機会を提供するとともに、市内の子育て支援団体とのつながりを深める機会を提供することを目的に、実行委員会を立

と及び、市内の民間の子育て支援団体と保護者がつながり合う場の提供の二つを大きな目的として、イベントを開催した。）　右のとおり変更 【課題と次なる展開】 ②人数をどれだけ増やしていけるかということに課題が設定されているかと思う。例えば、ワクワクフェスティバルで、「準備に係る人員が限られている～」と書かれているが、具体的にどういう工夫をしていくかということはあるのか。 （→記述は実行委員会側の内容になるが、実行委員会に加盟している団体が自分の所属団体の運営に必死になり過ぎると、イベント運営に課題が生じることになるので、必ず実行委員として選出をいただこうとしている。） 【成果指標】 ③この事業も、どれだけPRをして、参加者を増やすかということになる。周知方法としては、インスタグラム、公式LINE、紙媒体になると思う。やはり何らかの成果指標、目標値を設定して、取り組むことが大事である。 右のとおり変更（指標設定）	ち上げ、子育て支援団体と連携しながら事業を計画し、当日は約1，000人が来場し、親子と子育て支援団体がつながる場として開催することができた。 ②　― ③ <table><tr><th>事業内容</th><th>成果指標</th><th>実績</th><th>主担当課</th></tr><tr><td>親子でワクワクフェスティバルの実施</td><td>来場者数５００人以上</td><td>約1，000人 （－） 【－】</td><td>子育て企画課</td></tr></table>

施策の基本方向2　生きる力を培い創造性を伸ばす教育の推進

2－1 確かな学力の確立

P15(3)主体的な学習習慣の育成(教育研究所)

意見・質疑等 (（ ）内は外部評価者ヒアリング時の回答)	記載変更内容 (削除→見え消し、追加→二重下線)
【実績と成果】【課題と次なる展開】 ①昨年度の学力向上プロジェクト事業の内容を踏襲するようなことが書かれており、最初の部分に書かれていることと合致していない。 (→ICTの活用については、「GIGAスクール構想における学びの充実」と重複しているため書きづらいところもあり、この項目に主体的な学習習慣のことを書き、「GIGAスクール・・・」の方にICTの活用について書いているが、ご指摘のように、こういう文言があるのであれば、やはりICT関連の実績と成果、今後の課題の展開というのが必要と思う。) ②主体的・対話的で深い学びの授業をするために、子どもたちは１人１台タブレットを使い、ICTを活用しながら自ら学んでいくので、そうした文言があると、そういうことも活用しながら主体的に学んでいるとともに、授業改善の面からも子どもたちにそういう流れを作っているということが分かると思う。　右のとおり変更	【実績と成果】 ~~①学力向上プロジェクトチーム会議を年3回開催した。「主体的・対話的で深い学び」を実践している奈良女子大学附属小学校での視察研修を行い、研究推進担当者会で報告会を開催し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の促進を図った。学力向上研修会は年4回開催し、指定研究校の授業研究会での実践発表や研究推進担当者連絡会において校内研修の効果的な進め方について研修を深めた。「たんばささやまっ子学力向上プラン」を全小学1年生の家庭に配布した。~~ 各学校の実情に合わせて10分から15分間の朝読書・朝学習を実施し、学習習慣の確立に向けて学習した。また、放課後には小学校8校、中学校4校が放課後にがんばりタイムを実施し、基礎学力の定着を図った。さらに、デジタル学習教材等を活用して、児童生徒が「自ら学ぶ」学習に取り組むための環境整備を行った。 【課題と次なる展開】 ・指定研究校と連携し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研究を推進し、教職員の資質向上をめざす。 ~~・先進的な取り組みを進めている学校の視察から学び、丹波篠山市にあった教育活動に反映させていく。~~ ・「主体的・対話的で深い学び」のさらなる向上に向けて、研究推進担当連絡会を効果的に活用して各校の校内研究を進める。また、先進校視察や講師招聘により、研究の質の向上を図っていく。 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向け、一人一台端末の更新を着実に進め、

	ICT やデジタル学習教材等の活用を図りながら、児童生徒が「自ら学ぶ」ための環境整備に努める。

P15（8）外国語教育の充実（学校教育課）

意見・質疑等 （（ ）内は外部評価者ヒアリング時の回答）	記載変更内容 （削除→見え消し、追加→二重下線）
【実績と成果】【課題と次なる展開】 ①小学校での取り組みは分かる一方で、中学校でも、ペアワークなど小学校の基礎をもとにして進めておられるのだとは感じているが、中学校がどう取り組んでいるのかについての記述があまり見られない。成果指標は難しいと思うが、子どもたちに身に付く外国語・英語になるように願っている。 （→業務改善の視点からは、学校にアンケートを取ることは難しい面もあるが、特に聞きたいことについては、アンケートを取っていくことも考えたい。） 右のとおり変更	①【実績と成果】 市内に8人の外国語指導助手（ALT）と5人の小学校外国語学習指導補助員（JTE）を配置した。授業等において直接交流することで英語をより実践的に使う機会が増え、コミュニケーション能力の向上につながった。 英語の読み書きの基礎をつくるとともに、中学校への円滑な接続をめざして、小・中学校の教員や外国語指導助手（ALT）を対象に、「音と文字」※の研修を2回開催した。1回目は実践紹介及びワークショップ形式による演習を、2回目は講師による実際の授業参観、講義を行った。~~研修での学びをもとに各校で学年に応じて「聞く」「話す」「読む」「書く」学習に取り組み、~~市内全小学校で共通の「音と文字」指導計画をもとに学習~~する~~を進めることができた。また、その内容を中学校での学習にもつなげることができた。
【成果指標】 ②実際の取り組みと成果指標との関連性について教示願う。 （→コミュニケーション能力を育てていくために、グループワークを進めていくことを研修会でも取り扱っている。成果指標として、学力・学習状況調査の項目を使っているので、直接結びつきが難しい指標にはなっている。学力・学習状況調査の項目の中で最もグループ活動に合う項目を指標に選んでいる。）	② ―

③成果指標が定量的で気になるので、質的な面でも、中学校への円滑な接続を図るためということであれば、例えば中学校の先生に、これをやることによってどう変化があるのか、効果が感じられるかということを聞くのもやり方の一つであると思うので、検討をお願いしたい。 【「R8教育」策定時検討】 ④例えば、ALT が各学校、各クラス当たり何回ぐらい授業をしたということも量的な面では指標に入れられると思う。そうした活動をどれだけやって、何人配置して、どれだけの活動量があるか等、量的な面ではそういったことで効果をある程度認めることができると思う。 【「R8教育」策定時検討】	③④―

2－2 豊かな心の育成

P17(2)学校における人権教育の充実(教育研究所)

意見・質疑等 (( )内は外部評価者ヒアリング時の回答)	記載変更内容 (削除→見え消し、追加→二重下線)
【実績と成果】 ① 新型コロナウイルスのことが書かれているが、まだ必要か。 (→県からの文書を見ても、まだ書かれているものがある。コロナが明けたとはいえ、マスクの着脱についても個人に任されるところがある中、特に小学校においてはきちんと指導していくことが大事であると考えている。)	①―
【課題と次なる展開】 ②人権課題の多様化への対応を図る反面、同和問題についての校内研修が減少しているとの記述であるが、校内研修の時間は限られている中、結局、比率をどうするかである。見直しを図るといっても、各学校に校内研修などで委ねるところがあると思うが、どういった働きかけをするのか、方向性を教示願う。 (→教育委員会では、昨年度と今年度、県の人権教育課の指導主事に同和問題	②・教職員の人権意識の高揚と実践的指導力の向上に向けた研修の充実に努める。また、各校において全体計画・年間指導計画の点検・修正を行い、教職員の意識を高めていく。 ・令和5年度、6年度の調査より、インターネットによる人権侵害や性の多様性等、新たな人権課題に関する校内研修を実施する半面、同和問題についての校内研修会

についての話をしていただいた。各校の代表１人がこの研修を受けていることから、自校に持ち帰り、広げていく形で研修を進めている。今後の展開については、ベテラン教員から若手教員へ授業をする中で、これまでの流れや学習方法を伝えられれば良いと思っている。）　右のとおり変更	が減少している~~傾向にあるため、見直しを図っていく~~。限られた時間の中、市教育委員会や市人権・同和教育研究協議会主催の同和問題に係る研修会の内容を自校に持ち帰り、共有する時間を設定する等の工夫を教示していく。
③今日的課題がたくさん出てきているので、そういうものと普遍的な課題とのバランスが大事であると思う。一本筋を通すのは、ここに書かれている文言で、自他ともに大切にするという学びは学校にしかできないことだと思うので、そういうことを期待している。 （→同和問題は、やはり日本固有の課題であるので外せないところでもあり、今も残る差別という視点においても必要と感じている。法にもそのように定められているので、同和問題は絶対に外せないものと考えており、うまくバランスを取りながら研修を進めてもらえるように尽力していきたい。）	③ ―
④初任者研修をはじめ、特に若い先生へ研修に力を入れて取り組んでいただきたい。 （→ゼッケン登校を知らない若い職員も増えてきており、そうした歴史的背景は非常に大事であると思うので、そこはベテラン教員から伝えていただくことが大切であると考えている。）	④ ―
【成果指標】 ⑤この調査の数字は、学力・学習状況調査の数字から出てきたのか。 （→道徳教育の充実の成果指標については、市生活習慣状況調査の数値を使っている。学校における人権教育の充実については、全国か市どちらかの学力・学習状況調査であるので、明記する。）　右のとおり変更	⑤全国学力・学習状況調査において、人が困っているときは、～

2－3 健やかな体の育成

P19(4)部活動の新たな形に向けて(学校教育課)

意見・質疑等 (( )内は外部評価者ヒアリング時の回答)	記載変更内容 (削除→見え消し、追加→二重下線)
【実績と成果】 ①人材確保と予算確保の現状を教示願う。 (→令和 6 年度は市内 5 中学校の 15 部活動について、15 人の部活動指導員を配置し指導にあたっている。部活動指導員は、1 時間 1,500 円程度の謝金対応で、先生の代わりに単独で指導し、引率もできる。) ②剣道、ホッケー、ソフトボール、サッカーは、地域クラブを先行実施されているが、他はどのように地域クラブを広めていくのか。 (→昨年度末から、地域クラブと部活動指導員を公募しており、地域クラブについては、現段階で、男子バレーボール、バスケットボール、軟式野球の受け入れを考えたいとの団体がある。男子バレーボールについては 8 月 2 日に、地域の運営団体の方と顧問の先生、生徒を集めて、実証活動を行う予定である。令和 7 年度に数回、実施し、教育委員会事務局の担当もその状況を把握する中で、令和 8 年度の夏以降、団体の受け入れが可能であると総合的に判断した段階で、地域クラブとして担っていただく計画である。今ある 3 つの団体を含めると、6～7つぐらいになると考えている。地域クラブで受け入れが難しい場合は、現在指導員の公募登録が 23 人ぐらいあり、学校からのニーズがあれば、卓球や吹奏楽など、それぞれ学校に配置を進めている。最終的に指導員が揃わなければ、学校の先生が継続して進めることになる。予算については、今、学校に予算配当をしている部分を地域クラブへ一部移行すること等を協議している状況である。) ③文化系の部活動はどうか。 (→休日に特に力を入れて活動しているのが吹奏楽部になる。3～4 人の指導員を各中学校に配置し、指導いただいている。)	①～④【実績と成果】 令和6年度は市内5中学校15部活動に15人を配置し、教員の部活動に係る負担軽減を図るとともに、より専門的な指導を通じて効果をあげることができた。「部活動推進員」については各中学校に1人ずつ配置し、~~教師~~教員にかわり部活動事務の調整、練習の補助を行った。 ~~休日~~部活動の~~段階的な~~地域~~移行~~展開に向け、令和6年度は4種目(剣道、ホッケー、ソフトボール、サッカー)において主に休日地域クラブ活動を先行実施し、~~主に休日の活動を担った~~公式大会にも参加した。

④「教員」と「教師」の表記があるが教員でいいと思う。「～地域移行に向け」との記述について、既に部活動全体の地域展開というフェーズに移行し、用語がもう定着しており、「地域展開」でよいと思う。　右のとおり変更 【課題と次なる展開】 ⑤吹奏楽をやっている先生はかなり熱心な方が多い。吹奏楽が活発に活動している学校は、先生の指導によるところが大きいように思う。 （→地域クラブ化すると先生にも謝金も出るが、地域クラブ化しない場合は、学校管理下の顧問としての動きとなり、指導員になれない。顧問の先生においては、情熱もありつつ、大きい責任感で活動されている面もあるので、そこのバランスを上手くとっていく必要がある。また、特に専門性がない顧問の指導については大きい負担になることもあり、持続可能な体制の構築については、今後も検討していく。）　右のとおり変更 【成果指標】 ⑥主眼が置かれているところは教職員の負担軽減である中、成果指標については、昨年度と同じで部活動の推進員、指導員の配置となっている。量的な面は整いつつあるので、目に見える形で、市民に理解してもらうことも大事であると思う。例えば、教職員の勤務時間がその配置によってどれだけ減っているのか、部活動推進員、指導員がどのぐらいの活動をし、どのぐらいの成果を上げているかについては、今年は何時間、来年は何時間等、量的なものも分かるはずである。また、教員の勤務時間、あるいは聞き取りをし、メンタル面を含めてどれだけ軽減されたというところを見える形煮ることも可能であると思う。これだけの人員、予算を使っている中、どれだけの効果があるのかをうまく市民に理解してもらえるようなPRというのが大事であると思う。	⑤・学校のニーズに基づき、引き続き部活動指導員~~、部活動推進員~~の配置を進める。 ・中学校部活動改革の推進に向け、部活動の「地域~~移行（~~展開~~）~~」（※1）及び「地域連携」（※2）を進めていく。 ・「地域~~移行（~~展開~~）~~」については、令和6年度先行実施クラブの成果と課題を~~洗い出し~~もとに、より効果的な推進となるように取り組む。また~~新たな種目の受皿開拓に向けは、~~地域クラブ~~を~~の公募を開始し、その他の種目の受皿開拓に努める~~学校と連携し、試行的な体験クラブ活動などを行う~~。 ※1「地域~~移行~~展開」とは、学校管理外として休日等に活動する地域クラブが、部活動に代わる地域のスポーツ・文化芸術活動の受皿となって活動すること。 ⑥ ―

(→別項目で、教職員のメンタルヘルス、ストレスチェック、勤務時間、業務の効率化等を掲出している。) 再掲という形で示してもよいと思う。 【「R8教育」策定時検討】	

2－4 社会的自立に向けたキャリア形成の支援

P21(2)小中連携心のサポート事業の実施(学校教育課)

意見・質疑等 (( )内は外部評価者ヒアリング時の回答)	記載変更内容 (削除→見え消し、追加→二重下線)
【実績と成果】 ① 不登校の出現率等について、他市町と比べてどういう状況か。 (→手元に他市町との比較がないが、本市においては、令和 5 年度は不登校が小学校 28 人、中学校は 88 人であった。令和 6 年度は、小学校は 3 人増で 31 人、中学校は 78 人で 10 人減になった。これは小中連携の回数を増やしたことや、子どもたちの話を聞いて、あなたはどうしたいのとのカウンセリングマインドの研修会を校内でも行う等、学校管理職を始めにリーダーシップを取って取り組んできた成果と感じている。なお、人数が多いように感じるかもしれないが、不登校のカウントについては、本人が精神的な不調を訴えて入院するとか親の教育姿勢等を除き、本人は行こうと思っているが何らかの事情により行けない状態が年間トータル 30 日以上の場合を不登校とするという文科省の規定がある。学校は年間 35 週程度あるので、週 1 回ずつ休むと週 4 日来ていても、不登校になる。中学校の 78 人については、学校とつながりがない状態ではなく、全員が学校とつながりを持って、医療機関や福祉との連携等、基本的な対応はきちんとできている。学校としても、不登校の児童生徒が少しでも入りやすいようなサポートルームの設置や専門のスタッフを配置しながら進めている状況である。) ②研修を実施したことしか書かれていないが、研修を実施したことによって、指導	①～④【実績と成果】 ～授業改善についての研修を開催した。小中が連携し、中1ギャップ解消に向けた取り組みを協議し、円滑な接続を図った。

力が高まった、またサポートルーム等の活動を通して、子どもたちに改善が見られる等を加筆していただくほうが事業効果をPRする上で有効である。成果の部分を書き加えることで、事業の有効性を市民に理解していただけると思う。 ③不登校は何が原因なのか。 （→不登校の原因は千差万別で、本人もその理由についても分からないこともあるが、却ってその原因を追及することが子どもをより苦しめるところもある中、教育委員会や学校は、学びの多様化ということでフリースクールの出席認定やサポートルームの活用等、一時的に学校行きたくないとの気持ちになることをある意味では肯定的に受け止めている。その中で、自分が将来どうしていくのかということを自分自身のこととして考えていくことに寄り添いながら進めている。） ④　対応により不登校がなくなってきた事例はあるのか。 （→不登校の子たちが通級していく場所としてゆめハウスがあるが、そこで力をためて、学校に戻っていくという事例もある。また、サポートルームで一定過ごすことで、教室に戻る、逆に教室からサポートルームに行き力をためることで戻っていくこともある。最終的に戻ることが良いことでもゴールでもないが、学校としては、色々な子どもがいる中で、その子どもたちが必要以上に傷つくこともなく、でも、自分の将来に向けて着実な歩みが進められるような選択肢や対応ができる環境でありたいと取り組んでいる。）　右のとおり変更 【課題と次なる展開】 ⑤令和 5 年度も 6 年度も、生徒指導体制の確立の記述があるが、いまだ生徒指導体制の強化が課題であるのか。もう課題ではなくて取り組みが進んでいるのではないのか、もっと進歩したところを書かれてもいいのではないかと感じる。 右のとおり変更	⑤・問題行動・不登校等の諸課題に対する未然防止・早期対応のため、~~学校の組織的な対応力の向上が求められる。そのために~~生徒指導担当を中心とした学校生徒指導体制の強化が~~課題~~重要となる。~~チーム学校としての生徒指導体制構築に向け、生徒指導担当のリーダーシップや関係機関との調整力の向上に資する研修会を実施する。~~生徒指導担当がリーダーシップを発揮し、学校が誰にも居場所がある魅力的なものにするための「発達支持的生徒指導」※の充実が図れるように、研修会を実

	施する。 ※「発達支持的生徒指導」とは、子ども自身が、自発的・主体的に自らを成長・発達させる過程を支える生徒指導のあり方。特定の児童生徒ではなく、すべての児童生徒を対象に、すべての教育活動の中で、日常的に進められる生徒指導の基盤となるものを指す。

施策の基本方向3　子どもの学びを支える環境づくりの推進

3－1 安全安心で質の高い学習環境の整備

P24(3)防災教育・防災体制の充実(学校教育課)

意見・質疑等 (( )内は外部評価者ヒアリング時の回答)	記載変更内容 (削除→見え消し、追加→二重下線)
【課題と次なる展開】 ①学校の安全対策については、校門の閉鎖や防犯カメラの設置等、被害に遭わないような手立てをしていると思うが、やはり地域の見守り等、地域との連携がまだまだ必要であると思う。　【「R8教育」策定時検討】	① ―
【実績と成果】【成果指標】 ②地域の災害に関する内容をテーマにした防災教育を実施した学校の割合が100%になっているが取り組みの一例を教示願う。 (→八上小学校では、毎年、地域の消防団と連携して、4～5月の早い段階で、火災訓練と引渡しの訓練を実施している。参観日時に実施することによって保護者への啓発にもなっている。また、古市小においては、地域とともに安全・安心・防犯・防災についてより特化してやっていこうという取り組みでセーフティープロモーションスクールになっており、今年で3年目になる。夏休みの宿題で、地域の災害について子どもたち自身で学び、そのことを地域と共有して進めていくような取り組みが積み上がってきている。) ③当然 100%にならざるを得ない指標であり、指標設定について検討いただきたい。質的な調査結果等については、実績と成果等に加筆することでもよいと思う。 【「R8教育」策定時検討】	②③ ―

P24（9）GIGA スクール構想における学びの充実（教育研究所）

意見・質疑等 （（ ）内は外部評価者ヒアリング時の回答）	記載変更内容 （削除→見え消し、追加→二重下線）
【実績と成果】 ①ICTに関連する教職員の研修会等は実施しているのか。 （→今週、ICT基礎研修として、ある小学校の先生に来ていただいて活用の仕方を教えていただく。以前も研究会において、中学校で生成AIを使われていたが、子どもには使わせずに、先生が使っておられる形であるが、使用方法を子どもたちに伝え、例えば、子どもらと話し合った学習発表会の台本を生成AIに入力し、生成AIであればどんな台本を作るのか、必要なセンテンスだけ抜き出し、それを生成AIにかけて歌を作ってもらう等の取り組みをしている学校もある。）	① ―
【課題と次なる展開】 ②1 人 1 台端末の更新と通信ネットワーク環境の見直しについて、現状を教えていただきたい。いつぐらいまでに端末を更新するのか。 （→令和 8 年度に小・中・特別支援学校について、更新、導入ができるように進めている。また、ネットワークについても、実際のネットワークの状況を調べてから、必要であれば更新に着手したいと考えている。）	② ―
③生成AIの活用について、対応が難しいところがあると思うがどうか。 （→現在、教育の情報化プロジェクトチームに生成AIのガイドラインを投げかけて、実際に生成AIを活用するに当たり検討している。今後、教育の情報化プロジェクトチームで確認ができたら、各校にそれを下ろし、それぞれの学校に合わせた生成AIのガイドラインをして作っていくという形を計画している。また、昨年度から先生が中心となって生成AIの活用をしているが、子どもたちが生成AIを使っていいのかどうかについて勘案している段階で、バイアス等、色々な問題をしっかり	③④ ―

と各校で考えてもらった上で導入を進めていきたいと考えている。） ④今後の課題と認識すればよいか。 （→データの利活用が大きくなってくる中、今後、新しいシステムが導入されると、子どもたちがどんなふうにして端末を使っていくのか、その端末の使用頻度等の統計を分析しながら、市内に広めていきたいと考えている。） 【成果指標】 ⑤1 人 1 台端末という量的な部分は達成されている中、使用頻度に重点が置かれていると思うが、もう少し発展させてどれだけ効果があったのかを測るような指標があると良いと思う。 （→指標が 5 つほど学力調査の中にもあるが、今の段階としてはこのあたりと考えているが、話合いやICTを活用した子どもたち同士の交流等も検討していきたい。）【「R8教育」策定時検討】	⑤ —

3－2 地域とともにある学校づくり

P26（1）コミュニティ・スクールの推進（教育研究所）

意見・質疑等 （（ ）内は外部評価者ヒアリング時の回答）	記載変更内容 （削除→見え消し、追加→二重下線）
【実績と成果】 ①学校運営協議会の人材は、地域のどの団体が中心になっているのか。 （→基本的にはまち協、自治会、PTA会長等を中心に参画していただいている。）	① —
②活動はどのようなものか。 （→基本的には年間 3 回の会議にて熟議を進め、ふるさと教育、生活科や総合	② —

的な学習の時間を活動いただいている。最近ではリサイクルやPTA活動との連携等、幅が広がってきていると感じている。） 【課題と次なる展開】 ③PTA 活動自体が大変で、なり手がないと聞いているが、どうか。 （→例えば、岡野小学校はPTO といって自由型の組織を持っておられるところもある。PTAも大変になってきているが、まち協や自治会においても高齢化が進んできており、そこの運営自体も大変になっていることもあり、それぞれの団体において課題があると感じている。） ④くじ引きでPTA会長や役員を順番に決める事例もあると聞くが、学校運営協議会の人材確保の課題はどうか。 （→令和 6 年度の取り組みの反省の中でも、これまで学校運営協議会の中心を担ってくださった方が高齢化しているとともに、働く世代の方に大きな役割を任せることはなかなかできない中、新たな人材確保に苦慮しているところである。） ⑤少子化、高齢化もあり、地域においては祭り関係で困っており、ふるさと教育の中で何とか協力をいただきたいのが本音である。 （→学校でも働き方改革ということで教職員の業務量が膨大になる中、地域活動においてもできるところは協力していくという形をとらせていただいている。コロナ禍で縮小していた地域行事を再開させていこうとの地域もあるが、ここで入っていくと以前に戻ってしまうこともあり、対応が難しいのが実情である。） ⑥コミュニティ・スクールの推進については、人材が必要であり、その人材を募ることが課題でもあげられている。既に取り組んでおられる事例があれば教示願いたい。	③ ― ④ ― ⑤ ― ⑥⑦⑧ ―

(→コミュニティ・スクールにおいては、多くの学校で安全点検、登下校の見守り、防災訓練等に取り組んでいる。学校では、協力者の人材バンクを作ったりしている。) ⑦人材バンクは、学校単位でそれぞれ作成しているのか。 (→今のところ学校単位である。今、社会教育・文化財課と連携し、市として大きな人材バンクをつくって、学校が人材で困ったときにはそこに問合せをして人材を紹介していただくといったものができないかと協議している。) ⑧個別に学校で持っておられる人材バンクのデータを教育委員会で集約し、A 校でもB校でも人材として活用できるようにしてはどうか。 (→学校でも共有できるようなものができたらいいとは思っている。) 【成果指標】 ⑨現在の指標は、伝わりづらいと思う。例えば、今の人材の確保状況を指標にしてはどうか。 (→学校運営協議会が作られて、本年度から第 4 期に入っている。第 3 期まではどんどん広げていって推進していくことであったが、これからの課題としては持続可能な学校運営協議会の在り方になる中、人材の確保に係る成果指標を上げるのは非常に厳しいと思うが、ふさわしい成果指標を検討していきたい。) 【「R8教育」策定時検討】	⑨ ―

3－4 教職員の資質能力の向上

P27(2)いじめの防止等への的確な対応(学校教育課)

意見・質疑等 (( )内は外部評価者ヒアリング時の回答)	記載変更内容 (削除→見え消し、追加→二重下線)
【実績と成果】 ①学校においては、いじめ防止に向けた取り組みを積み重ねていただいている	① ―

と思うが、例えば、タブレットや家でもパソコンを使う中でネットいじめ的なもの等、教師の目が届きにくくなっていると思う。また、部活動を地域展開していく中で、視点を変えた取り組みが必要ではないか。いじめのアンケートをとり、見つかったら会議を行うという手間と時間のかかる従来の手法を今も続けてきたが、今も取り組みは変わらないのか。 （→いじめのアンケート等は、これまでどおり大事なことであり続けている。また、今はもうLINEではなくて、インスタグラムのDMへの書き込み等、色々なアプリで情報交換を行っており、親も分からない部分もある。こうした中、中学校では年 1 回実施していたネットワークに関わる子どもたちの学習会を、今は学期に 1 回、年 3 回実施する学校がほとんどになっている。小学校でも、PTAと合同で高学年にLINEの使い方等の研修をしている学校が多くなっている。なお、保護者や子どもから学校が全く把握していないSNSでのトラブルについての相談があった場合は、保護者と連携して対応している。） 【成果指標】 ②市民が見ると、いじめの認知件数だけを見て、ものすごく増えていると認識されると思う。積極的に認知して、早期対応を図ろうという学校や行政サイドの意向というのがなかなか伝わりにくい部分もある中、件数を出すのはどうなのかと思う。 （→見逃しゼロを目標に指標設定している。） ③市民が見ると、認知件数が去年より増えているから悪化しているとの認識しか持たないと思う。発生に対する対応率や解消率を指標にしても良いのではないか。事業PRの目的もある中、いじめが増えるというのはマイナスのイメージが強いので工夫しても良いと思う。 【「R8教育」策定時検討】	②③ ―

P27(3)不登校の支援と未然防止への対応(学校教育課)

意見・質疑等 (( )内は外部評価者ヒアリング時の回答)	記載変更内容 (削除→見え消し、追加→二重下線)
【実績と成果】 ①校内サポートルーム及び心の健康観察について教示願う。 (→校内サポートルームでは、午前中に不登校児童生徒支援員を配置し、子どもたちが来たときに対応している。去年不登校のお子さんがおられた学校等に配置をしており、市内5中学校と3小学校に設置をしており、予算の関係もあるが、増やしている状況である。保健室や校内サポートルームと選択肢の幅が増え、ここであれば行けるという子が増えているので、不登校の解消に大きな力になっていると感じている。心の健康観察については、去年までは、八上小学校でフォームを使って、しんどい子いませんか、心のしんどさがある子はいませんかということをチェックしていた。それを今年度は一人一台端末にあるまなびポケットを活用し、モデル的に八上小学校と篠山中学校、今田中学校で取り組んでいる。)	① ―
②自分自身の心をどう捉えるかということについて、一人一台端末を使ってできるのであれば、自分自身を振り返ることによって気づきもあると思う。不登校支援については、たくさんの人の手を借りながら取り組んでいることであるが、助けてもらうばかりではなく、自分の心を掴んでうまく生活を回していくということにつなげていければ良いと思う。不登校問題行動対応会議や子ども支援会議については、校内で実施しているものか。 (→市教委でしている。他にも福祉部局との相談や会議、教育委員会内にもSSW、SC、指導主事による学校訪問等を、学校の状況を共有し、学校の対応のサポートやアドバイスをしている。)	② ―

【課題と次なる展開】 ③専門家のサポートや関係機関との連携はありがたいことだと思う。あとは、保護者の思いとのすり合わせが大事であると思う。	③ ―

P27(9)教職員の勤務時間適正化及び業務の効率化の推進(学校教育課)

意見・質疑等 (( )内は外部評価者ヒアリング時の回答)	記載変更内容 (削除→見え消し、追加→二重下線)
【実績と成果】 ①スクールサポートスタッフは県費であるのか。 (→県費と市費の両方である。去年より2校増え、6校に配置している。)	① ―
【課題と次なる展開】 ②「令和6年の教職員1人当たりの月平均超過勤務時間は、24時間01分と改善する」とあるが、本来は、これは実績と成果になるのではないか。昨年度の取り組みの結果、これだけ削減したということで、課題と次なる展開というのは、令和7年度要は目標みたいなところになってくるかと思う。1時間削減するのは結構大きい中、個別に見ていくと、学校規模や小学校と中学校でも違うと思うので、目標値を設定されてはどうか。勤務時間外の留守番電話や校内支援システムの導入等もあり、順調に減ってきている感じはするが、0を目指していく必要はあると思う。	②【実績と成果】 ～勤務時間の適正化を進める~~。~~た結果、令和6年度の教職員1人あたりの月平均超過勤務時間は、24時間01分と改善した。 【課題と次なる展開】 ~~・令和6年度教職員1人あたりの月平均超過勤務時間は、24時間01分(前年度比1時間18分)と改善する。~~
【成果指標】 ③学校行事や会議のスリム化は進んでいるのか。 (→学校行事の改革、スリム化は進んでいると認識している。教職員1人当たりの超過勤務の平均時間については、今年は24時間01分であり、それぞれの職種を見たときには管理職以外は下がっている。教頭、校長の超過勤務が増えていることが課題であるが、全体としては減っている。)	③ ―

施策の基本方向4　人生100年時代を豊かに生きる学びの推進

4－2 スポーツの推進

P32(3)丹波篠山ABCマラソンの開催(社会教育・文化財課)

意見・質疑等 (（ ）内は外部評価者ヒアリング時の回答)	記載変更内容 (削除→見え消し、追加→二重下線)
【実績と成果】 ①リレーマラソンは、中間時点でタスキリレーするのか。 (→そうである。篠山鳳鳴高校がちょうど 19km 地点で約半分となっている。18.2km の関門でリタイアした場合でも、タッチをした場合でも、一走の人が歩いて戻れる距離であるので 19km と 23km で分けている。)	① ―
②時間を延長して、苦情はあったのか。 (→苦情はなかったが、スタート時間を 10 時 40 分から 9 時半に前倒ししたことによって、大阪から 1 時間程度で来れるが、大阪まで出て来るのに対応する電車がないということもあった。大阪、京都、姫路等からは配車したバスに乗ってくださいとのアナウンスはしたが、そもそも間に合わない方がおられた。制限時間を延ばしたことで、ランナーが減った部分もあるが、トータル的には、エントリー数が増えたので、プラスの方が大きいと認識している。)	② ―
③朝日放送との関係性はどのようになったのか。 (→朝日放送とも引き続きタイアップする。43 回大会までは、朝日放送丹波篠山ABCマラソンと言いながらもお金の部分は全然違う枠、これまでは、1 時間特別番組を作るためのスポンサーが日本臓器製薬で、大会には一切そのスポンサー料は入ってきていなかった。改めて朝日放送とスポンサーの意味等を協議をする中で、前回の 45 回大会については、株式会社ピラーがスポンサーとしてついた。企業版ふるさと納税の活用のPRをした結果、市内企業からも協賛金を集めること	③ ―

ができ、協賛事業者が複数になったので、ABCマラソンの事業の中に全て放り込んだ形にした。その代わり、宣伝広告費として、朝日放送にはぺこぱのまるスポという既存のスポーツバラエティ番組の中で 1 時間ABCマラソンを取り上げていただき、そこで市内の協賛企業のCMを作ってもらうとの取り組みに変えたので、一体的なPRができていると思っている。おはよう朝日の中で告知をする等、引き続き朝日放送と連携しながら、取り組んでいくことで進めている。） 【課題と次なる展開】 ④コロナ明けで人数も回復してきているが、ピーク時は 1 万人ぐらいであった。今後の募集定員をどのように考えているのか。 （→44 回大会については、コロナ明け以降で制限がなかったことから、1 万人に戻して募集をした結果 5,000 人強しか参加がなかったとの現実を踏まえ、昨年の第 45 回大会については、8,000 人＋リレーマラソンを新たに導入、また制限時間を 6 時間半に延長する等、生まれ変わる大会として実施をした結果、多くのランナーに来ていただけた。ただ、関西圏においては、2～3 月に、京都、姫路、大阪と大きいマラソンができたことによって、これまでのように 1 万人を簡単に達成する大会は非常に厳しくなってきた。その中で前回大会が 1 万人に対して 5,000 人しか来なかったことに伴い、支出を大分減らしたものの、市から 1,800 万ほど持ち出して開催したので、前回については、定員を 8,000 人に、制限時間を延長する取り組みと、新たに民間企業でSNSを得意とされるマラソンのサプリメント企業とタイアップすることによって、ランナーに直接アプローチするような取り組みができたおかげで、トータル 7,700 人ほど来ていただき、持ち直したとは思っている。ただ、また 1 万人というのは非常に厳しいと認識している。先日の第 46 回大会の実行委員会で諮らせていただき、定員については引き続き 8,000 人、リレーマラソンは 150 組で進めていこうと思っている。）	④ ―

⑤宿泊数はどうか。 （→以前、宿泊プランとして、市旅館業組合と連携し枠をとっていただいたことがあり、そのときは枠が埋まったが、次の年から埋まらなくなった。10 時 40 分スタートなので泊まらなくても来れることが分かったことで、前泊の方が少なくなった。今後、スタート時間を 9 時半にすることによって宿泊客が増える可能性はあるが、旅館がどこまでその枠を置いておくのか、どこで開放するのかという取扱いの課題もあり、今は宿泊プランとしてのタイアップは考えていない。） ⑥今後の展望はあるのか。 （→今後はそうした展開も検討していきたいが、現在は、バス業者とマラソンバスの時間帯の設定、ルート、料金設定について協議している状況である。他の大会ができたことによって選ばれなくなってきたこともあり、今後は、参加者確保に向けてランナーに直接アプローチをしたいと思っている。例えば、今まで参加賞としてTシャツを渡していたが、ランナーが着て走っているかというと着ていない。マラソンの業者と協議する中で、ランナーに喜ばれる、ランナーが欲しい参加賞にしたいということで、今回、生地のいいタンクトップを 1,000 円で作ってくれるとの話ができた。そのことを大々的にPRをして、ランナーに走ってもらって、できたらそれを当日着てもらうことによって写真を撮ったときに、SNSで発信されるので、PRにもつながっていくというような取り組みに変えていこうとしている。）	⑤⑥―
⑦海外からのエントリー対応が課題に書かれているが、これまでも海外からの参加者がおられたと思うが、把握されているのか。 （→去年、韓国の方から 20 人ぐらい団体で来られていたが、日本語をしゃべれる方がおられたようで、特段こちらで対応はしていない。ただ、今回は万博や丹波篠山国際博をやっている中、JTBからも提案いただいており、海外ランナーを迎え入れる体制整備をしようとしている。サウスジャパンというマラソンのサプリメント企業も、拠点をシンガポールに移されてアジアで動かれている。そういったところ	⑦ ―

から、ランナーを引っ張って来れるとの話も聞いているので、少し料金設定は上がるが、海外ランナー用のエントリー枠を取って、当日の英語対応等ができるような体制整備を進めたいと思っている。）

【成果指標】

⑧丹波篠山市民のランナーの割合が指標になっているが、参加者が増えれば増えるほど、市民ランナーの割合は減るが、どうか。

（→44 回大会の 5,000 人のときは、市民ランナーの割合が増えた。市民ランナーは 300 人程度変わらずおられたので、エントリー数が減ったら、割合的には増えた。）

⑨変えたほうが良いのではないか。

（→前回大会から、市民向けに練習会を開催するようにした。そのサウルスジャパンというサプリメントメーカーは、大阪や東京でも練習会をされている。それがSNSで発信されているので、昨年度は12月、1月、2月と3回練習会をお願いした。色々なところで練習会のPRをして、やるたびに市民ランナーも増え、最後は 70 人ぐらい練習会に参加し、走っていただいた。今回の 46 回大会については、朝日放送も活用し、エントリーを開始する 10 月から練習会も月に 1 回開催してもらうようにお願いをしている。市民のマラソンランナーを増やす取り組みはやっていることから、一定増えていくと認識している。）

⑩それでは割合ではなく、人数にしたらどうか。

（→人数にする。）　右のとおり変更

⑧⑨⑩

事業内容	成果指標	実績	主担当課
丹波篠山ABCマラソンの開催	丹波篠山市民のランナーの~~割合~~人数を~~、ランナー全体の3．5％~~350人以上にすること。	~~3．2％（236人）~~ （－） 【－】	社会教育・文化財課

4－3 文化財と町並みの保存と活用

P33(5)丹波焼の保存と活用の推進(社会教育・文化財課)

意見・質疑等 (( )内は外部評価者ヒアリング時の回答)	記載変更内容 (削除→見え消し、追加→二重下線)
【実績と成果】 ①活用の方向性を教示願う。 (→丹波焼の登り窯や製品等の歴史的な部分について活用を考えている。保存については、遺跡が各地にあり、一定法律で守られている。今回、立杭陶の郷の改修に際して展示を更新し、それを見ていただき、それで丹波焼の歴史等を理解してもらってから窯元に行ってもらうような展開を考えている。今、文化庁から文化観光拠点事業補助金をいただき、丹波焼の組合がコンサルタントを入れて、PRに取り組まれている。その補助金を活用し、学芸員を雇用して発掘調査等をしており、陶の郷の展示の中に、歴史文化も含めて、展示で反映していくことによって、現場に行っていただく。また、六古窯の中で、備前等は発掘調査をされて進んでいるようであるが、丹波焼の歴史はなかなかひも解かれていないので、今回の文化観光拠点事業を足がかりに、文化庁の補助金を取りながら、細く長く発掘調査を進めていけたらとは考えている。)	① ―
②丹波焼の特徴的なものは何か。 (→壺とか甕等が丹波焼らしいが、今は幅広くいろんな現代的なものを作っておられ、多種多様なものがある。今、調査している中では、登り窯がやはり特徴的だと言われている。130mくらいあるようなものが残っていて、日本でも一番長いのではないかと言われている。)	② ―
【課題と次なる展開】 ③継続して学芸員等、専門家の助言をいただきながら進めていくことが大事であ	③ ―

ると思うが、やはり財源確保が難しいのか。 （→非常に難しい。文化観光事業の中でもっと調査をしたかったが、事業メニューが観光に主眼を置いたもので発掘調査がメインではないため注力できなかったというのが正直なところである。組合からは、歴史文化をひも解いてほしいとの希望はあるので、今回の事業をきっかけとして、今後、文化庁の発掘調査等の補助金も申請していきながら発掘調査を進めていくことも検討している。） ④財源及び人材の確保に「努める」という方向性は分かるが、「調査研究を行う」となっているのは、何の調査を行うのか。 （→そういう財源があるかどうかというところを調べていくことである。） ⑤「財源と人材の確保を図るため」あるいは「持続可能な支援体制の構築に努める」というようなイメージか。ここで調査研究との表現は、発掘調査とリンクしているような誤解が生じるかと思うので、語尾の修正をお願いする。 右のとおり変更	④⑤ ・窯跡群の保存と活用を推進するためには、継続的な発掘調査が必要であり、財源及び人材の確保~~について調査研究を行う~~など、持続可能な実施体制の構築に努める。

4－4 文化・芸術の振興

P34（2）丹波篠山市展の開催（社会教育・文化財課）

意見・質疑等 （（ ）内は外部評価者ヒアリング時の回答）	記載変更内容 （削除→見え消し、追加→二重下線）
【課題と次なる展開】 ①出展数は、年々増えてきているのか。 （→208 点ということで 34 点増であるが、その前の年に出展数が減ってきたため、それまで一律 1,000 円だった出展料を、市外 2,000 円、市内 1,000 円にした。その結果、市外からの出展が減ってしまったため、去年は一律 1,000 円に戻した事によって増えたと思っている。今は一律 1,000 円で考えているが、出展数は減っ	① ―

て来ると思っている。社会教育委員との協議の中で、市展が形骸化しているのではないかとの意見もあり、本年度に調査研究してもらうことにしている。もっと市民が参画できるような仕組みをつくるべきではないかとの意見もあり、今後、各文化協会会長等と協議していきたい。市展ができた経緯としては、市民にもっと芸術文化に触れてもらう機会として、各地区でやっている文化祭より一つ高い位置付けにしている。出品してもらって審査して、展示するので、どのタイミングでできるか分からないが、今回は、どんな作品が展示されているのかを市民向けにPRすることや市民の作品も飾ることで、市民に見に来ていただける仕組みを作り出したいと思っている。） ②賞金を上げたら、出展数が増えるのではないか。 （→現状の賞金 30 万円については、他の市展に比べて格段に高く、賞をとる人も同じような層の人がとっている状況が見受けられるとともに、当時、河合先生からのご寄附等もあってスタートしたが、現在は市の一般財源からの持ち出しであり、そこも含めて考えたい。市民に芸術文化に触れていただくという目的で引き続き取り組んでいくのか、市民参加型でもう少し気軽に見ていただけるものにするのかも試行錯誤しているのが実情である。） ③市民は各地区で実施している文化祭に作品を出したりしている。 （→そことの違いをどう考えるのかが課題であると認識している。地区の文化祭よりもレベル高いものを市展には飾るとともに、ほかの作品も飾ることで、芸術文化に触れてもらうような機会にできないかと思うが、難しいところがある。） ④オープニングイベントの鳳鳴書道部のパフォーマンスや吹奏楽の演奏は、人を呼び込むには良いと思う。 （→10 回大会や 20 回大会等、記念時にオープニングイベントを実施しているが、	②　― ③　― ④　―

今回は 21 回大会であり、オープニングイベントを実施する予定はない。なお、オープニングイベント時に人は来ているが、今回はそういう訳にはいかないので、作品をどのように市民に見ていただくためにどのようなアプローチができるのかを試行錯誤していきたい。）	